令和3年度学校評価 結果

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	多久市立東原庠舎西渓校

1　前年度 評価結果の概要	・自己肯定感を持つ児童生徒の割合が目標８０%に達することが出来なかった。自己肯定感もたせていくために、学年の実態に応じた個々の出番の設定と成功体験の実現・承認の機会設定の機会を設けるようにする。 ・前期課程への後期からの乗り入れ授業が進み、５・６年で教科担任制が進んだ。子どもと職員が係わる時間の確保を図っていくため、義務教育学校の特徴を生かしながら業務改善をさらに進めたり、職員の意識改革を図ったりしていく。 ・特別支援学級在籍が２０%を超え、一人ひとりにあう指導に取り組んだ。さらに特別支援学級や配慮を要する児童生徒への理解を深めるために、インクルーシブ教育の充実を図ったり、計画的な職員研修の機会を設けたりして、共通理解を図る。
2　学校教育目標	志をもち、自ら学び、共に高め合い　たくましく生きぬく西渓っ子の育成
3　本年度の重点目標	○「チーム西渓」としての義務教育学校教職員の協働力の推進 ○「主体的・対話的で深い学び」による学力向上、「あくしゅタイム」の推進 ○いじめの未然防止、早期発見・早期対応、再発防止の取組強化 ○インクルーシブ教育の理念に基づく特別支援教育の充実

4　重点取組内容・成果指標　**中間評価**　**5　最終評価**

(1)共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上	・本校の課題を意識し、学力向上対策シートを活用し、取組の工夫改善を行う。	A	・学力向上対策評価シートのマイプランの目標達成状況についてアンケートを実施した。結果を見てみると、目標が達成できたとする教員が91%とおり、十分な状況であると考える。一方で、目標を達成できなかった教員が9%おり、PDCAサイクルを利用したさらなる研鑽が必要であると考える。	A	・児童の学習に関わるアンケートの結果、学習意欲に高まりを感じている教員が90%おり、授業が分かりやすいと感じている児童生徒が89%であった。一方、県の学習状況調査の結果は、県の平均を下回る学年があった。これらのことから、学力に課題が見られるが、学習意欲や態度は改善されつつあり、今後の取組次第で学力向上につながると言える。	A	・アンケート結果と学力テストの開きはないのか。学力の捉え方について、「考える力」「生きる力」とテストの点数で定着を見ることは、両方が結びついていて、両輪でなければならない。
	○主体的・対話的で深い学びにつながる授業実践	○「あくしゅタイム」（考えを交流する活動）で、自分の考えを深めたり広げたりすることができると思う」と回答した児童生徒80%以上	・教育活動全体で「あくしゅタイム」を推進し、児童生徒の考えを深めたり広げたりする。手だてとして、１日1時間以上の授業で「あくしゅタイム」を設定する。	B	・「あくしゅタイム」を取り入れた学習について児童生徒に意識調査を実施した。その結果、学習内容がより理解できたとする割合が90%であった。一方、「あくしゅタイム」を積極的に行ったとする教員は86%にとどまっており、あくしゅタイム導入の在り方をさらに深める必要がある。	A	・「あくしゅタイム」を学習に取り入れた教師の割合が90%で、学習内容をより理解できたとする児童生徒の割合が85%であった。授業に「あくしゅタイム」を取り入れる割合が増えたため、児童生徒の学習理解に係るメタ認知が向上し、意識としては5ポイント下がったと考える。今後取り組みを継続することで、より高い学習理解が図れると考える。	A	・子どもたちが、自分で課題を見つけ、自分で考え解決することが重要。自分の考えを人に伝える事、人の意見を聞いて自分の考えを深めたり広げたりすることは、大人になっても必要な力である。 ・意見や考えを言いやすい学級づくりが土台となる。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける道徳教育の充実	●アンケートで「学校は道徳など心の教育に積極的に取り組んでいる」と回答する保護者85%以上	・一人一授業の研究授業を行ったり、研修会を行ったりして道徳科授業の工夫改善を行う ・家庭や地域に、道徳通信を年3回発行する。	A	・アンケートでは90%の児童が自分の気持ちを表し、友達の気持ちを大切にしていると答えた。1学期に全体授業研究会を2回実施して、一人一授業の取り組みも進んできている。道徳通信も年間の計画を立て、学期に1回ずつ発行していく。道徳科の授業と学校行事を関連付けた取り組みを充実させていきたい。	A	・「心の教育に積極的に取り組んでいる」と回答した保護者は90%であった。また、90%の児童も「友達の気持ちを大切にすることができている」と回答している。年間を通して、職員一人一人が授業改善に努めることができた。道徳科と教育活動全体を関連づけることに関しては課題が残っている。	A	・心の教育、友だちの気持ちを大切にすることを学校では取り組んで欲しい。 ・道徳の授業が形式的になったりマンネリ化しないよう精査して欲しい。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	●いじめ防止等について、組織的対応ができていると回答した教師80%以上	・毎月の「あくしゅアンケート」や日記帳、学活ノート等で、いじめの早期発見、早期対応を迅速に行う。	A	・いじめ防止等について、組織的な対応を全校で確認した。具体的取組である月1回のあくしゅアンケート等を通して、いじめの早期発見、早期対応を実施しているため、今後も継続して取り組みたい。	A	・「いじめ防止・早期発見・早期対応に向けて努力している」という意識は、調査の結果からその通りです53%、だいたいそうです47%と意識をもって行動している。また年間を通じて、「あくしゅアンケート」や日記帳、学活ノート等で、いじめの早期発見、早期対応を継続することができた。	A	・アンケートでは全職員が「いじめ防止・早期発見・早期対応に向けて努力している」について「その通りです」と回答できるように取り組むべきである。
	◎児童生徒が夢や志を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動の充実	◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒90%以上	・行事や体験活動では、児童生徒の自主性・自発性を大切にして、キャリアパスポートにつなげる。 ・各種体験活動では、児童生徒に活動の見通しを立てさせ、学びの振り返りをさせる。	B	・西渓会を中心に生徒の思いを考慮しながら、各行事の内容を検討して実施することができた。しかしながら、アンケートで肯定的な回答をした児童生徒は80%未満であった。今後は行事や体験活動を通して達成感や自己肯定感が高まるように取り組みを充実させたい。	B	・行事や体験活動への取り組みに関するアンケートに肯定的な回答をした児童生徒は82%、保護者は92%であった。しかしながら、将来の夢や目標に関する項目には、保護者も含めて80%に達していない。そのため、各種体験活動が将来の夢や目標などに繋がるような手立てを講じる必要がある。	A	・「将来の夢や目標を持っている児童生徒」が90%以下だから評価がBというのはおかしい。キャリア教育は悩みがあって当たり前。多くの選択肢のある教育と応用力、悩みへのフォローがあれば目標がはっきりしていなくても良いのではないか。評価方法について検討が必要。 ・いろんな体験をすることで可能性が広がる。やりたいことをみつけていく。
●健康・体つくり	●望ましい生活習慣の形成	●「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣が出来ているという児童生徒・保護者80%以上 ●　気持ちの良いあいさつを進んで行っているという児童生徒80%以上	・学級活動や保健だよりの発行等で、児童生徒への啓発を行う。 ・西渓会によるあいさつの励行を推進する。	B	・80%以上の児童生徒が「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣がついている。 ・西渓会を中心に80%以上の児童生徒が、気持ちの良いあいさつを進んで行っているとアンケート回答した。しかし、場面によって差がある。特に、登校時の挨拶は、まだ十分とは言えず西渓会を中心に声かけを行う。	A	・アンケートの結果、80%以上の児童生徒が「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣がついていると答えている。 ・西渓会を中心に毎朝挨拶運動が行われており、自分から進んで気持ちのよい挨拶ができると答えた児童生徒は80%を超えた。廊下や玄関ですれ違うときに挨拶ができる児童生徒も増えてきているが、声が小さかったり、自分からできなかったりするので、新生徒会を中心に活動を継続する必要がある。	B	・食育の大切さを伝えたい。 ・後期の自転車通学の生徒が自ら気持ちの良い挨拶をしてくれる。 ・地域での挨拶が、元気がなく声も小さくなってきたような気がする。 ・挨拶は社会の基本と考えれば、目標の80%は低いと思う
	○安全に関する資質・能力の育成	○児童生徒の交通事故・生活事故の発生件数0（ゼロ）	・交通安全教室、集団登校、自転車点検において自己の振り返りを実施する。	B	・全体的には交通事故・生活事故0（ゼロ）を達成できていたが、マナーや交通ルールの面では地域の方からの注意を受けることがあった。 ・後期課程では自転車点検を実施しているが、その使い方には不安が残る交通安全教室や、集会での指導を繰り返し行う必要がある。 ・前期課程では集団登校を行っており、下級生も安全に登校する意識が育まれている。	A	・学校全体として交通事故・生活事故0（ゼロ）を達成できていた。マナーや交通ルールの面では地域の方からの注意を受けることがあった。 ・後期課程では生活図書委員会の活動として自転車点検を実施した。これからも継続的に交通安全教室や、集会での指導を行う必要がある。 ・前期課程では、集団登校を継続して行っている。保護者からの意見で、集団登校の安全性を心配しているものがあったため来年度に向けて検討していきたい。	A	・徒歩通学者が交通事故ゼロが継続できるように町部の歩道拡張等の道路整備が必要である。通行車両が急増している。 ・マナーや交通ルール違反が一部見受けられる。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校時間の上限45時間以内の遵守	・ペーパーレス会議の推進と、終了時刻の提示をして協議のみを行う。 ・学校施錠時間の設定と徹底 ・定時退勤日の設定と徹底 ・タイムマネジメントを意識し、業務の効率化に向けて働き方を見直す。	A	・職員会議は、ペーパーレスで実施した。終了時刻が予定より遅れることがあった。職員会議資料を前日までの提示し、目を通すようにする。徹底したい。 ・教職員の時間外勤務時間が月平均は、29．2時間で、昨年度8%減であった。定時退勤日は、実施率があり職員の意識も変わってきた。	A	・校内にて、企画委員会、運営委員会を経て、職員会議を行ったことで、年度当初に比べ、計画的に会議を行ったり学校行事の周知を図ったりすることができた。 ・教職員の時間外勤務が月平均で、29.5時間であったことから、効率的に業務にあたったり、定時退勤日を意識したりすることに繋がっていったと言える。	A	・教職員の多忙極まる職務の中で、児童生徒にむきあう大変さは理解している。働き方に、色々工夫をして改善して欲しい。 ・教職員の健康あってこそ、充実した教育が出来る。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言
○特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教師の資質向上と支援体制の構築	○特別支援教育に関する専門性が向上した教師80%以上 ○ケース会議充実による具体的かつ組織的な対応ができた教師80%以上	・特別支援教育に関する研修会の実施 ・ケース会議の開催、情報共有 ・児童生徒の実態を把握と保護者、SC、SSW、関係機関等の連携 ・個別支援計画の活用	A	・特別支援教育に対して理解が深まり、支援を行っている教師は100%。ケース会議や関係機関との連携は、必要に応じて行うことができた。また、個別支援計画は、紙媒体での保管場所を職員室に確保して日頃活用している。 ・研修は、1学期の研修は実施できたが、夏休みの研修はコロナ感染予防のため中止になった。	A	・特別支援について理解が深まり、支援を行っている教師100%。関係機関との連携の充実ができている96%年間3回の特別支援教育研修会の実施ができた。 ・支援会議は必要に応じて開催している。 ・個別の支援計画・指導計画の保管場所を確保し、活用ができている。	A	・特別支援が必要な子どもが身近でも増えている。全職員で研修会など積み重ねて欲しい。 ・障害児に対する支援が手厚くなっている。通常学級の児童生徒の障害に対する理解も高め、特別支援学級の児童生徒がいじめの対象にならないようにして欲しい。

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・学校目標達成のため重点取組については、おおむね目標を達成することができた。 ・学力向上については、「主体的・対話的で深い学び」につながる授業改善とともに学習状況調査等で目に見える形でに成果も期待したい。そのためにも、まず学習規律の徹底を全学年で取り組む。 ・心の教育については、引き続き道徳教育の充実をはかる。いじめの未然防止・早期発見・早期対応については、全職員で重点的に取り組む。 ・キャリア教育については、全体での見通しを持った計画をたてる。学校評価における捉え方、評価の仕方について再考する。 ・業務改善・特別支援教育の充実については、着実に成果を上げている。引き続きの充実を図る。